

令和元年度  
発生予察情報

## 特殊報第 1 号

令和元年 10 月 15 日  
埼玉県病害虫防除所  
(TEL:048-539-0661)

### ネギハモグリバエの別系統の発生について

ネギの葉が著しく白化したネギハモグリバエによる被害が、県北部地域で発生した。確認したところ従来のネギハモグリバエの系統とは異なることが判明した。

\* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 害虫名 ネギハモグリバエ別系統 *Liriomyza chinensis* Kato

2 発生経過

- (1) 令和元年 8 月に、県北部地域の秋冬ネギほ場で、ネギの葉がネギハモグリバエに著しく摂食され白化する被害が確認された。従来の被害の様相とは異なるため、農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターに同定を依頼した結果、遺伝子解析によって従来の系統（以下、A 系統と略記）とは異なる別系統（以下、B 系統と略記）であることが判明した。
- (2) B 系統の発生は、平成 28 年頃から京都府で、その後茨城県、富山県、千葉県及び長野県で確認されている。

3 本種の特徴

- (1) A 系統と B 系統の形態による識別は困難である。両系統とも成虫の体長は約 2 mm であり、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である。幼虫は、うじ虫状で、成長すると約 4 mm に達する。蛹は、体長約 3 mm の褐色、俵状である。
- (2) 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込み葉肉を食害する。幼虫は成虫すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。

4 被害の特徴

B 系統は A 系統と比較して、1 葉あたりの幼虫数が多い傾向がある。初期の食害痕は A 系統と同様に不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が癒合し、葉全体が白化したようになる。葉肉は食い尽くされ、表皮が浮いた状態になり表皮を剥離すると、多数の幼虫が確認される。

## 5 防除対策

- (1) 発生を確認したら、表1を参考に発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋めるなど適切に処分する。



写真1 被害を受けたネギほ場      写真2 被害を受けたネギの葉      写真3 成虫 (体長約2mm)

表1 ネギのネギハモグリバエ (※はハモグリバエ類で登録) の防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ベストガード粒剤	4 A	収穫前日まで	3
ダントツ粒剤	4 A	収穫3日前まで	4
スタークル粒剤 ※ アルバリン粒剤 ※	4 A	生育期 但し、収穫3日前まで	2
ディアナSC	5	収穫前日まで	2
アグリメック	6	収穫3日前まで	3
アフーム乳剤※	6	収穫7日前まで	3
リーフガード顆粒水和剤	1 4	収穫7日前まで	2
カスケード乳剤	1 5	収穫14日前まで	3
ベネビアOD※	2 8	収穫前日まで	3

(使用基準は令和元年10月11日現在)